

清谷閑子 きよたに かんこ 小説家。明治二十二年一月五日大阪府三島郡高槻生れ、昭和十四年二月二十四日没（八九の一八九元）。本名杉本まさこ。筆名國分まさこ、國分正生、杉本昌夫、杉本正生、楳本まさこ。京都市と家政女學校卒。明治四十年『京華日報』に處女作發表、四十四年は『京都日日』に出新聞』に長編連載。翌年平塚らひがらしを頼りて上京、青鞥社同人となり雑誌『青鞥』等の執筆。大正六年『婦人畫報』記者、次で『大阪時事新報』の懸賞小説に應募した。『月見草』（楳本まさこ名、三版・大正十年二月二十五日と文社）が一等當選と、十一年母の死を期し文學を離れ、江渡欲嶺に佛敎を學び、村上素道、澤木與道に就き參禪。更に壽尾順歌の師事して雑誌『眞京の世界』等の心境を執筆。その後再婚した夫の没落に伴ひ再び文學に戻り、昭和七年『サンデー毎日』の懸賞小説に「不死鳥」を以て應募、海音寺潮五郎の「風雲」と共に當選した。爾來新聞、雑誌の小説の他史博物等、いゝ等々執筆。子宮癌にて歿。

他の『處女王國』（昭和八年十一月十日春秋社）、『舜海懺悔抄』（昭和九年六月十日大雄閣）、『名僧の母』（伊福部敬子・青木春三編、昭和十六年二月二日新踏社）『清谷閑子集』第一卷（一）等。

